

Special Report

洞爺湖有珠山周辺の フットパス



洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会
会長 壮瞥町長 山中 漠



◆洞爺湖有珠山周辺◆

1. はじめに

2000年の有珠山噴火では、洞爺湖温泉街にごく近い西山西麓や金比羅山に火口が生じたことから、長期間にわたる立入規制や風評被害による観光客の減少により、観光産業に深刻な影響を与えました。このような厳しい状況下、当時の北海道開発庁長官の私的諮問機関「北海道活性化懇談会」が設置され、その報告書では、地元の提案も踏まえて火山を新しい観光資源として活用する方策が提言されました。

その後、本格的に「火の山・北の大地の歴史にふれる自然博物館」を主要テーマに、1960年代にフランスで提唱された農山漁村地域の内発型の地域振興策「エコミュージアム」を、当時の周辺6市町村（伊達市・豊浦町・虻田町・洞爺村・大滝村・壮瞥町）で展開することを壮瞥町が提案し、新しい圏域の魅力づくりをコンセプトとして構想を策定、2002年6月に取りまとめました。

このエコミュージアムとは、地域に点在する資源をそのまま「展示物」と見なし、住民参加型でつくり上げる新しいタイプの地域丸ごと野外博物館という考え方であり、洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想は、メインテーマの下、「火山の恵み」「大地の恵みと文化」「先人の歴史と海の恵み」の3つのエリアで構成され、地域にある資源を活用して、次世代を担う子ども達や来訪者に向け、地域の歴史伝承、人づくりなどを行い、観光振興、地域防災力の向上を目指すものとなっています。



上空から眺める洞爺湖有珠山地域

2. エコミュージアムとジオパーク

このように、関係機関のご支援を受けながら、サテライト（各展示物）周辺整備やサイン整備を続け、発展的にその推進母体となった洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会（2006設置。合併後の伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町で構成。事務局壮瞥町）では、火山など地球の活動によってもたらされた地質や地形、そして変貌を繰り返す大地と人間の営みの歴史などをテーマに、保全された地域資源に新たな角度から光をあて、観光や防災啓発の推進を図る取組を行ってきました。

これらの考え方が、2004年にユネスコの支援により設立された世界ジオパークの基本理念と共通するものが多いことから、当協議会では、2007年からジオパークとして世界認証を得るための活動を行ってきました。

ジオパークとは、保護・保全を主目的とする「世界遺産」とは違い、学術的に貴重で重要な、あるいは美しい複数の保全された地質遺産があり、その地域固有の歴史・文化を含む自然公園をいい、これらの資源を活用し教育や観光など地域経済や文化の発展に寄与し、持続可能な社会経済開発を育成するプログラムで、厳格な世界基準による審査を通過した地域だけが世界ジオパークネットワークに登録することが出来る仕組みになっています。

現在、世界18か国58か所が登録されていますが、日本にはなく、今年、洞爺湖有珠山地域のほか、新潟県の糸魚川、長崎県の島原半島地域が国内第1号の世界ジオパークネットワーク加盟に向け申請中です。

「洞爺湖有珠山ジオパーク」の最大の特徴は、地球の大変動帯に位置する日本列島のプレート潜り込みの島弧型火山活動によって顕著に生成を繰り返す貴重な地質と、その変動する大地とはるか縄文からアイヌ文化期、そして現在に至る人間の共生の歴史を、アクセスの良い極めて狭い領域で見ることが出来る自然公園であるということです。

10万年スケールの洞爺カルデラの形成から、1～2万年前の有珠山生成、そして近世以降9回の顕著な火山活動と人間の歴史を数多くの地質や地形、遺跡、災害遺構、防災施設などを通して知ることが出来るフィールドです。

この洞爺湖有珠山地域では、地球活動のダイナミズムや被災史ばかりではなく、洞爺カルデラをつ

くった火砕流噴火により形成された洞爺火砕流台地で収穫される農産物の豊かな実りや、7～8000年前の有珠山の山体崩壊による岩屑なだれの流下でつくられた岩礁の多い有珠湾近海で獲れる多くの魚介類の恵みを人々が享受してきた歴史があり、現在、北海道有数の観光地として発展してきた洞爺湖温泉の必須の要件でもある温泉が湧き出たのも1910年の火山活動の恩恵のひとつとして、それらのすべてをジオパークの関連資源として位置づけています。

このように、洞爺湖有珠山地域ほど、火山活動による恵みによって魅力あふれる多くの世界水準の資源を持っているところはありませんが、この魅力は新たな角度から光を当てなければ輝かないのも事実です。住民一人一人がこの地域を再発見して、その魅力をいかに伝えていくかを考えていくことがエコミュージアム・ジオパークの地域としてのこれからの継続する取組となってきます。

3. 洞爺湖有珠山とフットパス

洞爺湖有珠山地域には、2004年にオープンした北海道自然歩道「火山回道」有珠山南外輪山遊歩道がありますが、昨年7月の地球環境問題を主要テーマとする北海道洞爺湖サミット開催を機に、新しく「よそみ四十三山ルート」、「こんびら金比羅山ルート」の2本のフットパスルートが整備されました。フットパスとは、イギリスが発祥の地であり「歩行者用の小径」を意味し、パブリック・フットパス（公共遊歩道）とも呼ばれています。

エコミュージアムやジオパークを推進する地域としては、今後のエコツーリズム・ジオツーリズムの展開のためにもサイト周辺やサイト間を結ぶ散策路・遊歩道は重要な基盤のひとつとなります。



洞爺湖有珠山フットパスマップ



金比羅山ルートから洞爺湖を眺める（写真右中央：有くん火口）

四十三山は1910年（明治43年）の有珠山噴火により湖畔が隆起して誕生した山で、来年、噴火後100年を経過するこの周辺では、森林に覆われた火口など植生の回復を伺い知ることができます。また、金比羅山ルートは2000年（平成12年）の噴火により形成された火口や、熱泥流により破壊された町営浴場や町営団地を巡るルートで、火山との共生がいかに厳しい現実を持つかを実感することができます。

このフットパスの整備と同時に、岡田弘、宇井忠英両北海道大学名誉教授の監修のもと、独立行政法人土木研究所寒地土木研究所が中心となり、観光及び地元の関係者とともに議論を重ね、洞爺湖有珠山フットパスマップを発刊されましたが、地元では、これからもニューツーリズムの情報ツールとして十分に活用していく予定です。関係各位の多大なるご尽力に感謝と御礼を申し上げます。

さらに、この2つのフットパスコースに加え、洞爺湖の「中島一周探検コース」、有珠山南外輪山遊歩道等を活用した「明治・昭和新山と有珠山コース」、「財田・田園と湖畔を巡るコース」、「洞爺湖展望と果樹園コース」という4つの既存道路を活用したフットパスコースが各関係機関のご支援とご協力により整備され、昨年10月、当地域で開催された全国エコツーリズム大会では、既存のコースと大会のために設定したコースの計5コースにより、この地域の自然観察や再発見を目的とする新しいツーリズムの試みが行われたところです。

この大会により、今後のジオツアーなどの新たな観光振興にむけた気運醸成が図られたことは非常に意義深いものとなりました。

また、今年の4月17日には、壮瞥町において独立行政法人土木研究所寒地土木研究所と当協議会の共



フットパスセミナーの様子



フットパスマップ出版権の引渡
山中会長（左）と恒松寒地土木研究所長（右）

催により、フットパスを通じた地域の宝物を再認識し、地域の活力を高めようとフットパスセミナーを開催し、プログラムの最後には、洞爺湖有珠山フットパスマップの出版権を同寒地土木研究所から当協議会が譲り受けたところです。

4. おわりに

洞爺湖有珠山地域では、今後一層これらの取組に対する啓発活動を行い、サミット開催地の追い風を活かして、噴火災害以降半減した修学旅行の回復や、今後増加が予想される中高年層の知的探求心を満足させるツーリズム、そして比較的古い地質しか知らないジオパーク登録地の大半を占める中国やヨーロッパなどからの観光客の方々に対して、有珠山にしか存在しない資源を活かし、地球のダイナミズムを肌で感じてもらうことができる世界基準のジオパークとして、このフットパスをジオツーリズムのポイントとして利活用できるよう、住民参加のもとで息の長い事業として関係機関の協力を得ながら取り組んでいきたいと考えています。